

令和 6 年度 住之江区区政会議

第 1 回 育む部会 会議録

1 開催日時 令和 6 年 5 月 2 0 日（月） 1 9 時 0 0 分から 2 0 時 0 0 分まで

2 開催場所 住之江区役所 3 階 第 3 - 1 、 3 - 2 会議室

3 出席者

〔区政会議委員〕

村藤 綾 委員、岡田 弘子 委員、風口 和美 委員

勝原 真一 委員、杉村 和朗 委員、三木 康彰 委員

（出席 6 人／定数 8 人）

〔住之江区役所〕

吉田 政幸 副区長

藤原 学 子育て支援・教育担当課長

松本 勝也 保健福祉課長

福田 佳代子 保健担当課長

寺戸 正弘 子育て支援担当課長代理

稲村 英明 教育担当課長代理

大家 典子 保健福祉課長代理

本田 弘美 保健副主幹

4 発言内容

○藤原子育て支援・教育担当課長

皆さん、こんばんは。それでは、ただいまから令和6年度住之江区区政会議第1回
育む部会を開催いたします。

私、事務局の住之江区役所保健福祉課 子育て支援・教育担当課長の藤原です。ど
うぞよろしくお願いいたします。

本日、出席いただいている委員、ちょっと遅れられていますけれども、出席という
ことで聞いておりますので、順に委員を紹介させていただきたいと思います。

まずは、村藤部会長でございます。よろしくお願いいたします。

続きまして、順番に風口委員でございます。よろしくお願いいたします。

続きまして、勝原委員でございます。よろしくお願いいたします。

続きまして、杉村委員でございます。よろしくお願いいたします。

岡田委員、三木委員につきましては、もう間もなく到着される御予定でお聞きして
おりますので、よろしくお願いいたします。

なお、小川委員、喜多委員は、欠席の連絡をいただいております。この場で報告を
させていただきたいと思います。

現時点の部分につきましては、全委員8名中、4名の出席をいただいております。
現時点の定足数では、定足数である委員定数の2分の1以上を満たしておりますこと
を御報告いたします。

住之江区役所の出席者につきましては、配席表にて御確認をお願いしたいと思いま
す。また、発言する際には、役職と名前をお伝えいたします。よろしくお願いいたします。

三木委員が到着されました。三木委員、よろしくお願いいたします。

この会議につきましては、個人情報などの非公開情報はございませんので、公開と
させていただきます。また、本日の傍聴者はおられません。

なお、大阪市では、省エネルギーの取組としまして、関西夏のエコスタイルを実施

しています。軽装での会議出席となりますので、御了承をお願いいたします。

また、本日の議論の内容につきましては、6月19日水曜日に開催予定の区政会議全体会で部会長から御報告いただき、情報共有を図ってまいりたいと考えております。

また、議事録につきましても、後日公表となりますして、公表する際は発言者と発言内容についても公開されますので、御承諾いただきますようよろしくお願いいたします。また、広報や記録のために写真を撮影させていただきます。併せて、御了承くださいますようお願いいたします。

それでは、会議が始まる前に本日の資料の確認をさせていただきたいと思います。お手元の資料を御確認ください。

まずは、次第、第1回育む部会という資料。

続きまして、育む部会委員名簿になっております。裏面につきましては、区政会議の委員名簿ということでつけさせていただいております。

続きまして、本日の育む部会の配席図、ございますでしょうか。

続きまして、資料1としまして、令和5年度住之江区運営方針振返り（案）についてというホッチキス止めの分でございます。

続きまして、区政会議についてということで、左上に資料2と書いております。こちら裏面は地域活動協議会についてということで、こちらの資料はございますでしょうか。

続きまして、参考資料としまして、こども家庭センターについてということで、こちらの横長の資料。

続きまして、資料4、子育て支援室ということで、子育て支援室のチラシです。こちらの分はございますでしょうか。

その他参考資料としまして、保健師 地域保健活動の御案内の黄色の冊子、あと、子育てマップです。皆さん、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

最後、資料5で、すみのえ未来塾アントレクエストという分、こちらございますで

しょうか。

本日の会議ですけれども、現在、策定に向けて進めております令和5年度住之江区運営方針振返り（案）について御報告し、今年度以降の各取組につなげていけるよう御意見をいただきたいと思いますっております。時間は、本日8時までの1時間を予定しております。スムーズな議事進行に御協力をお願いいたします。

それでは、ここから議事を開始しますので部会長にお任せいたしまして進めていきたいと思います。村藤部会長、よろしくお願いいたします。

○村藤部会長

それでは、部会の議事を進めさせていただきます。

本日は、令和5年度住之江区運営方針振返り（案）について議論いただきます。

早速ではございますが、事務局より説明をお願いいたします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

本日の資料は、「令和5年度住之江区運営方針振返り（案）」、こちらの分になっております。

運営方針とは、住之江区が重点的に取り組む課題を挙げて、その課題を解決することを目的とした取組を掲げたものとなっております。令和5年度も子どもに関すること、地域と福祉に関すること、防災防犯に関することの3つの経営課題を掲げていました。

当部会におきましては、そのうちの経営課題1「子どもたちが輝くまちづくり」について御議論いただくこととなっております。

資料につきましては、この課題で目指す主なSDGsゴールを掲載しておりますので、参考に御覧いただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは具体的な説明に入らせていただきます。

先ほどの資料1の部分です。1枚めくっていただきますと、令和5年度住之江区運営方針振返り（案）についての概要を簡単にまとめたものをつけさせていただいてお

ります。

これまでの取組の課題と方向性を踏まえた令和5年度の振返りを記載して、特に御意見をいただきたい箇所については赤枠で囲んでいます。その後のページにつきましても課題と改善策のところについては赤枠で囲んでおります。

それ以外の部分について、この部会意見のうち最後、特に具体的取組1-2-2すみのえ未来塾事業、こちらの一番最後のページP13ページを御覧いただけますでしょうか。こちらに係る意見で「参加者を増やすために学校でのチラシ配布だけではなく、例えば、プログラミング教室に通っている子どもなど、プログラミングに興味のある子ども達を対象に広報してみてもどうか。」という御意見をいただいたところであります。

今回、区としては、プログラミング教室等に通っていないなど、そもそもプログラミングに興味を持っていない児童生徒に対して、この機会にぜひ興味を持ってもらいたいと考えております。

こうした課題を解決するには、どのような見せ方、広報の仕方であれば児童生徒の興味を引き、参加者数の増加につながるのかという部分について、特に御意見をいただきたいと思っております。

それでは、簡単に資料に基づきまして説明させていただきます。1枚めくっていた部分で簡単に説明させていただきます。

経営課題1、こちらのページです。子どもたちが輝くまちづくりということで、全ての子どもが、個性豊かにたくましく育ち、夢と希望を持って学び、区民が安心して子育てができる環境の実現を目指しております。

1-1の取組としまして、子どもたちが笑顔で育つ環境の実現というところで、全ての子どもが誰一人取りこぼされることなく必要な支援を受けられる状態を将来像として掲げまして、課題としては、こどもサポートネットの充実、子育て世帯への切れ目のない見守り環境の整備ということを掲げております。この将来像に向けて3つの

取組を進めておるところでございます。

具体的取組 1－1－1、支援が必要な児童、生徒への取組ということで、取組内容としましては、児童や保護者のニーズに合わせた必要なサポートを関係機関と連携し実施ということで、その中でも課題としましては、保護者・児童への支援について、保護者にサポートやサービスの提案を行うが、同意を得られず、利用につながらないケースがある。その改善策としましては、学校等関係機関との連携により要支援児童等の発見に努め、児童や保護者ニーズを把握し、引き続き N P O 法人等の関係機関との連携を実施しておるところです。

具体的取組 1－1－2、全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備というところで、取組としては、子育て支援室・地域保健活動担当を中心に妊娠期から就学まで切れ目のない支援、大阪市版ネウボラやこどもサポートネット等状況に応じた支援の提案ということになっております。課題としましては、子育てに関する情報が入手しやすくなる、より効果的な手法の検討が必要という課題に対しまして、改善策としては、引き続き、子育て情報をホームページや S N S を通じて継続的に発信するとともに、子育て世帯に子育ての情報が届くよう効果的な情報発信を実施ということにしております。

具体的取組 1－1－3 としましては、相談機能、情報発信の強化と交流の場の充実の取組内容としては、いろいろな媒体を活用した子育て情報の発信、課題としましては、子育て情報を発信するとともに、誰もが相談できるよう取組の推進が必要であると、それに対しまして改善策としまして、子育てに関する困りごとや悩みごとについての多様な相談の機会を、S N S ・広報紙等を活用し、効果的に情報発信を実施ということにしております。

続きまして、1－2、子どもたちの「生き抜く力」の育成という部分の将来像につきましては、子どもたちが「生き抜く力」を身につけ、自分らしい未来を切り拓けるよう学ぶことができている状態の課題としまして、学習意欲の向上に向け、学校や関

係機関等とのさらなる連携ということにしております。この将来像に向けての2つの取組を進めております。

具体的取組1-2-1、児童、生徒の学力向上に向けた取組としまして、少人数体制での理解度等に合わせた学習支援、放課後の課外授業の実施ということと、課題としましては、基礎学力アップ事業について、令和5年度より新たに小学校でも実施しており、参加者数の増加に向けさらなる周知が必要。改善策としましては、参加者数の増加につながるような効果的な周知方法等を検討し、さらなる学校との連携強化を実施。

具体的取組1-2-2、チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つけたりする機会づくり。取組としましては、未来に向かって挑戦する力や解決していく力を育む授業プログラム等の実施。課題としましては、チャレンジ精神を育む講座への参加者数の増加に向け、小中学生にとって魅力あるプログラムの実施が必要。改善策としましては、施策目的を実現するにあたり、プログラミング的思考力を育む体験学習の導入など、より効果的な講座となるよう検討、実施していくとしております。

以上でございます。

○村藤部会長

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明を受けて各取組についての御質問や、よりよい取組にするために必要なこと、また、事務局から特に御意見いただきたいと依頼のあった内容について、御意見・御提案をいただければと思います。なるべく多くの委員からの御意見をいただきたいと思いますので、簡潔にお願いいたします。

どの取組からでも結構です。よろしくお願いいたします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

意見をいただく前に岡田委員も到着されております。本日の出席者につきましては、

8名中6名の出席ということで報告させていただきます。すみません、途中で、よろしく願いいたします。

○杉村委員

プログラミングの事業をやるということだったんですけれども、多分これ資料前回もつけていただいておりますと思うんですけれども、今回のプログラミングの大まかな大体こんなふうで考えていますというやつは、もうできているのですか。要はプログラミングの内容、さっき冒頭でお話があったように、プログラミングをやったことがない子供たちに参加してほしいということでお話いただいていたと思うんですけれども、やったことない子、関わったことがない子に参加してもらおうと思うと、ニーズ喚起やと思うんですけれども、キャンプとかのニーズ喚起するときにSNSとか使って、ちょっと名前が出てこなかったですけれども、なんて日だ！の相方の人がずっと一人でキャンプやっている、一人キャンプ、ああいうのを通してみんな一人キャンプがはやったというのがあるんですけれども、ニーズ喚起するに当たってプログラミングをやることで何ができるか、こんなことができる、ふだんの生活に全部プログラミングというのが大事で、大人やったら日々の仕事とか、病院とかだったらカルテのシステムとか全部プログラミングがあると思うんですけれども、多分子どもはそれがつながらないと思うので、子どもからしたら身近なところで行けばゲームだと思うんですけれども、ゲームをつくるにも全部プログラミングが含まれているからという、要はこれを学ぶことで何ができるんやということを結びつけられるようなチラシというか案内というか、それを文書にするのも、ごめんなさい、口で言うともちゃくちゃ難しいと思うんですけれども、絵のほう子どもだったら分かりやすいと思うんですけれども、何に対してもプログラミングって絶対あるので、それをできるような、これがあかんかったら、大人は読めばこれのよさは分かるけど、子どもに多分この起業が結びつかなかったとか、これを学ぶことによって将来どんなことが起きるんやということが多分結びつかなかったのもあかんかった原因の一つかなと思うので。

○村藤部会長

例えば今もうどの子もすぐQRコードを読み取って、今だったら見たら動画配信でシャッシャッシャッというのとかあれば、入ってきやすかったりもすると思うんですけども、この動画配信、このQRコードを持つところまで行くまでがいつも課題かなと、それだったら各学校の中学校とか生徒会とかありますので、そこからちょっとやってみるという感じで、学校を通してそこの窓口があれば、例えばこれも一つの経験値ということになれば受験のときにとても役に立ったりとかするんだったら、何かメリットがあるんだったら取り組んでもらえるのかなとは思いますが、QRコードを取り込んでもらうまでの、それはどの情報も一緒だと思うので、少し中学校、小学校さんの学校長でもちょっと呼びかけたらどうかとは思いますが。

○杉村委員

動員ってかけられないのですか。かけたら駄目なんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

すみません、ありがとうございます。動員というよりも行きたい方にぜひ行ってもらいたいというのもありますし、御意見本当にありがとうございます。いかにこのプログラミングの内容を分かってもらうかというところも大事ですし、学校、先生、生徒にどうアプローチしていくのかというところも非常に重要かなと、御意見いただいたところだと思います。

今いただいた意見の中で、イメージしやすくするためには動画配信もいいんじゃないかというところでいい御意見だなと思ひまして、今プログラミングの内容をちょっと詰めていっているところで、事業者さんの御協力をいただいて詰めていっているところで、今の事業者さんはJTBさんということで今事業契約をやっているところです。今おっしゃっていただいた、いかに興味を持ってもらうかというところでアプローチ方法であったり、JTBさんは大阪府でもこういった実績があるようですので、そういった民間さんのノウハウをちょっと活用させていただいて、先ほどおっしゃっ

ていただいた動画配信であったり、子どもさんへの一人キャンプもイメージできるような、最終的にこういったものにつながるというようなそういった部分も非常にいい御意見だなと思います。どうもありがとうございます。ちょっとその辺も事業者さんと一緒に詰めていけたらなと思っております。学校さんへのアプローチも事業者さんとも調整して積極的にアプローチしていければなと思います。本当にいい御意見ありがとうございます。

以上でございます。

○村藤部会長

何かありませんか。

○風口委員

私も実際、今プログラミングを習いに行っているんですよ。こんな年で習いに行っているのはちょっと恥ずかしいんですけども、プログラミングっていろいろあるんです。ホームページを立ち上げるのもプログラミングなんですよ。そのホームページを自分の日記のように書いていくとかもできるので、だから子ども専用のホームページがつかれる体験版をやったらいいのかなと思いました。だから、こっち側でコードを入力していったら、こうやって画面が動作できるよとか、そういう何かちょっと小さい子向けのをしたらどうかなと、それを実際にできることを体験できたら子どもたちもプログラミングのほうに向いていくんじゃないかなと思います。私も実際にやっていて反応しなかったらちょっと嫌ですけど、何でやろうとなるけど、子どもの若い脳でやっていけばこれからあれちゃうかなと思いますけど、そういう体験版があるはずなんですけれども。

○勝原委員

今の発信は学校からのQRコードだけ、子どもたちに発信は。結局結論はそこですよ。学校から言ってもらって、子どもたちが何人把握しているかですね。

○村藤部会長

うちの子ですけれども、たとえ配ったとてかばんの中にプリントが入っていますので、そうすると先生たちが興味がありそうな子たちに、ちょっとこんなあるから行ってみないかと声をかけてくれるのが一番効果的かなと。

○風口委員

ちょうど8月というたら1学期の懇談の後ですよ。その懇談のときに先生から保護者の方に言ってもらうとか。

○杉村委員

小中ですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一応小学校5年6年と中学校1から3年生というような感じになっています。

先ほどおっしゃっていただいた懇談とか、夏休みに入る前にちょっと学校さんへのアプローチというところ非常にいい意見かなと思います。ありがとうございます。

○勝原委員

一番はやっぱり子どもらが聞くのは先生の話、地域の人たちとか、区役所の人なので、次回こういうのがありますよというのを発信したら聞くといいと思いますから、特に中学生なんか先生がこんなにありますよと多分聞いていないと思います。さっき会長が言ったように、プリントなんかもらっても多分かばんの中か机の中にしまっている。

○風口委員

だから保護者に直接話をしたらと思います。

○勝原委員

保護者にな。果たして保護者が何人子どもたちに言ってくれるか。

○風口委員

それはね。でも、関心がある人だったら多分。

○勝原委員

定員も50人。少ない。

○杉村委員

でも前回3人とか・・・。

○藤原子育て支援・教育担当課長

5年度が少なかったのだ。

○杉村委員

俺も一回見にきたけど2人か3人しかいなかった。

○藤原子育て支援・教育担当課長

6回講座だったんですけれども。一応全小中学校の5、6年、1から3年の予算がありますので、大体180人ぐらいの想定をしているんですけれども。

○杉村委員

最初は舞昆ホールで。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。

○杉村委員

だんだん小さく・・・。僕は開けて怖なって閉めました。やばいやばいって、空気がげっないわと思って。すみません、申し訳ない。せっかく頑張ってやっではるかと思うけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

いえいえ、改善していくのが一番いいかなと思いますので。

○杉村委員

これめちゃ面白そうなんですけれども、多分伝わらなかっただけやと思います。

○風口委員

こんなこと聞いたら怒られるかもしれないけれども、そもそも何でプログラミングなんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ここに書いていますようにキャリア教育の一環というところで、チャレンジ精神とか、創造性、探究心を高めていってほしいという部分も、大阪市の方針として教育委員会の方針としてもありますので、それに付随して区役所として何ができるのかという部分で、こういったプログラミングというところに令和6年度からシフトして行ったというような状況でございます。

キャリア教育といっても起業家を育てるというのはなかなかイメージがつかない、みんなが起業するのかという御意見もこの育む部会でもいただきましたので、ちょっとキャリア教育というところを薄くしながらプログラミングを前面に出したようなところですよ。ぜひ参加者数増のために皆さんの御意見、先ほどからありますように御意見いただけたらなというような趣旨。

○勝原委員

抽選になったよいうような。

○杉村委員

動員が一番ですって。動員をかけますと先生に、まあ言われへんやろうけど。

○風口委員

でも好きな子は多分好きやと思いますよ、プログラミングは。

○杉村委員

絶対やったら楽しいですよ。多分やったら楽しいと思います。これもやったら楽しかったはずなんです。

○風口委員

そうなの。私は見に行っていないから分からないけど。

○村藤部会長

技術部・・・クラブみたいな部分にしているから、多分そういう部活動でやっているとところもあるのかなと。

最少人数とかあるのですか。何人集まれば。

○藤原子育て支援・教育担当課長

やることはやります。

○杉村委員

学校に配付してもらうときに、これさんざんやったんですと付け加えたら駄目なんですか。言いにくいかもしれないですけども、めちゃさんざんやったんです、今年はよろしく一言付け加えたら、人間なので学校の先生側も頑張ろうかとなるとは思いますが、多分配付お願いしますと言うだけやったら、以前と同じように。もう正直に全然やったと言ったほうが、いいも悪いも別に結果としてこれには記録には残っているし、多分区のホームページには載せていると思うので、もう正直に言って。

○村藤部会長

一校ずつ回るというのが一番いいかなとは思いますがね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

今御意見をいただいていますので、民間事業者さんとも連携しながら各学校回れるところは回って宣伝というか、ちょっと意気込みを見せながら調整させてもらいたいと思います。ありがとうございます。そういう御意見、本当にありがたいです。

○村藤部会長

ほかの項目から御意見はありませんか。

○勝原委員

すみません、一ついいですか。今、読み上げていただいたのですが、近々でいうと、支援が必要な児童、生徒への取組の一番下の改善策で、引き続きNPO法人等の関係機関との連携を実施とか書いていますが、これの確認というか、例えば区役所と学校とNPOとのトライアングルの連絡はうまくいっているのですか。どれだけできたとか、全部区役所で把握していますか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

日頃からちょっと気になる御家庭の情報というか、子どもたちもなかなか難しい特性をお持ちの方とかいらっしゃるので、こういった対応方法がいいのかというのはちょっと学校さんとも常に日々連携しているところです。あと、関係機関、NPOさんとか、いろいろ療育サービスとか、放課後デイとか、そういったサービスされているところの部分につきましても、お父さんお母さんお困り事があればそちらにつないだり、例えば第三の居場所ということで南加賀屋に「み・らいず2」さんがあると思うんですよ。天天というラーメン屋の近くにあるんですけれども、そこだったら子どもの居場所ということで、お風呂に入らせてもらったりとか、そういった部分で連携というか、子どもさんの居場所を提供するのにそういったところの連携は日々やっているところです。気になる場所としては、こどもサポートネットとかで学校で気になる子どもがおればうちのSSW、スクールソーシャルワーカーとも情報連携して、こういった支援がいいのか、福祉サービスはどうなのがいいのかとか、そういうところにつなぐのが。

○勝原委員

第一の発信はまず学校から行くということですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。小中学校についてはそうですね。お父さんお母さん保護者さんのお悩みでしたら、こちらの子育て支援室に来たり、地域の健診時に相談に来たりというような形で、いつも地域保健活動と連携させていただいて子育てを切れ目なくサポートしていこうというようなところでございます。今おっしゃっていただいたのはまさしくこども家庭センター、こちらの分でございます、こちらを説明させていただいてよろしいでしょうか。

こちらについては、令和6年4月1日から児童福祉の関係の法律が日本全国で改正されて、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもに対して、母子保健・児童福祉双方の連携・協働を深め、虐待への予防的な関わりから個々の家庭に応じた切れ目のない一体

的な支援を行うことで、相談支援体制の強化を図るということで、これまでほかの自治体では保健師さんの部門と子育て支援の部分が別で離れているというか、別組織でそれぞれで動いている部分の自治体もあったんですけども、住之江区は常に毎月定例会議をやっていますし引き続きやっていくんですけども、全国的にはこのこども家庭センターを各自治体につくっていかうという努力義務が課せられまして、この令和6年4月1日から住之江区におきましても住之江区こども家庭センターということで設置されたところです。

今までと相談機能とか支援をするという部分の中身は変わらないんですけども、枠組みとしてこども家庭センターを設置して取りこぼしなく、切れ目なく支援していかうというような体制で、住之江区につきましては今までと同様のやり方でやっていますので、こういう枠組みができたということで案内を入れさせていただいたところなんです。すみません、ちょっと途中で挟みまして、こちらにつきましては7月号にも若干広報紙に掲載させていただこうと思っていますので。もしお困り事があれば健診時の保健師さんでもいいですし、子育て支援室でもいいですし、ちょっと気になる家庭とかお子さんとか保護者さんがいらっしゃったら、まずはこちらに電話いただけたらと広報宣伝活動をしたいと思っていますので、ぜひよろしくお願いします。

○村藤部会長

岡田委員、何か御意見ありませんか。

○岡田委員

今サテライトという事業がとても混んでいてというような、なかなか入れないというようなことをちょっとお聞きしました。どことの連携でそこらはあっせんしてもらえるのかとか、そういう情報が学校から教えてもらえなかったりとか、そういうのがどこで教えてもらえるのかなというような声をお聞きしたので、そういう居場所として。

○杉村委員

さっき御紹介いただいた「み・らいず2」さんがそれに当たる。

オスカーは撤退したんですよ、家賃が高くなって。

○風口委員

そうなの。

○杉村委員

家賃がめっちゃ高いらしくて。

○風口委員

オスカーは撤退したんですか、いつの間に。

○杉村委員

事業はやっていますよ。変わらず事業はやっていきますけど、オスカーは家賃がめっちゃ高くて。

○勝原委員

N P O、国から援助は出るのかな。

○杉村委員

助成金是一部出ています。補助金として。

○勝原委員

学校は基本何でも隠すから。

○風口委員

ほんまそこ隠す。

○藤原子育て支援・教育担当課長

すみません、先ほどのサテライトの話なんですけれども、施設の数を増やすとかではないんですけれども、まず子育て支援室の家庭児童相談員という者がおりますので、そこで子育て支援室にまず電話いただいても結構かと思います。具体的なサービスとかであれば保健福祉課の障害サービスとか、そういった部分であれば保健福祉課の1階の3番窓口に来ていただいたら、またそういう御相談があればこの子育て支援室に

つながっていきますし、子育て支援室から障害サービスとか、いろんなサテライトとかであればいろんな関係機関にもおつながりはできますので、まずは御相談をいただいでということで、御希望に沿ったサテライトに入れるかどうかはちょっとあれですけども、いろんな持っている情報はこちらで御家族さんと一緒に考えていけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

○村藤部会長

そこが分からないからみんな行き詰まっているんです。だから情報開示とか、やっぱり知っている人だけできるとかじゃなくて、誰でも分かる、誰でも支援が受けられるというのが多分一番なのかなとは思うので。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。ぜひどこかの区役所の窓口はここにおるところが担当部署になりますので、またそれぞれでどこかに相談すれば誰かにつながるような形に、そういう体制はとっていますので、ぜひ区役所に御相談いただければと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

○村藤部会長

三木委員から御意見はありませんか。

○三木委員

ありがとうございます。不登校については、僕とか小児科の先生が心療内科の外来をしているんですけども、親御さんと一緒に来られてお話を聞いたりすることがあります。コロナの3年間で不潔恐怖とか強迫観念を持たれて学校に行かないとか、昔からあるけどトイレに行くとみんなに見られるから恥ずかしいから行けないとか、その子その子によっていろんな事情がある場合があるので、お話しして認知療法、そういうことを恥ずかしがる必要はないとかいうような話合いをして行っているんですけども。子どもたち側に立って子どもたちの考え方を尊重して頭ごなしにするんじゃなく、考え方を変えていくようにしているんですけども、最近そういうふうに医

療の場に親子で相談に来られる方が多いんですけれども。また、僕たちも子どもの心相談医という資格があってそういう研修を受けているんですけれども、お力になれるようだったら来ていただいたらいいと思います。

子どもたちというのは、がらっとすごく力をつけて成長していく。大人と違って本当に短時間、短期間の間でがらっと急に勉強し出したりとかするんですけれども、何かきっかけが要るかなと思うんですね。住之江区やったら他区にない住之江公園があったり、住之江公園のプールがあったり、そういうのをもっと府営のものだからあんまり協力できないのかもしれないけれども、公園管理者というのは民間の方がされていると思うので、昔だったら子どもたちを集めて映画会があったりとか、七夕があったりとか、いろいろ大人が楽しむのではなくて子ども中心のお祭りがあったんですよ。今は区でも盆踊りとかあるけど大人中心で、何年か前も住之江区の野球場で花火大会とかあったんだけど、酔っぱらった大人が殴り合いのけんかをしたりしていて、子ども中心のそういうお祭りがあったら、キャンプファイヤーとかあったらいいなと思うんですけれども。

○杉村委員

今週ありますけど。

○三木委員

そうですか。

○杉村委員

今週の土曜日ですよ。

○三木委員

そういうの僕も知らないんですけども、広報されたらどうなのかなと。楽しい思い出をつくるような、勉強も大事だけどそういう楽しい思い出をつくってあげるのが、そういう機会があればいいかなと思います。

あと、不登校と関連するんですけれども、スマホを遅くまで見ていて Y o u T u b

eをみんな見るんですよ。Y o u T u b eを見ていてL I N Eとかもあったり、お布団に入ってもスマホを使っているとか、スマホを取り上げたら怒るとかいうこと、やっぱりスマホの正しい使い方とか、子どもさんにとって成長期にむしろスマホはもう使わないほうがいいと思うんですけれども、そういうのをもっともっと学校も通して啓蒙していったらいいんじゃないかなと思います。

それと、せっかくプログラミングをやるのであれば成功させなあかんと思うので、やったというだけではなくて、やるのであれば本当にたくさんの人に参加してもらいたいので、もっともっと人を本気で集めるような何か取組があればと思います。

○藤原子育て支援・教育担当課長

貴重な御意見をありがとうございます。本当に子どもらがおる居場所的な部分、最近で言えば、おうどん屋さんが平日に駄菓子を提供したり、南加賀屋の「み・らいず2」さんでも土曜日に駄菓子屋をやって子どもらが集まってきたりとか、そういった子どもの居場所がいろいろと広がってきているような気がしますので。

○三木委員

小さな地域で取組をされていると思う。うちも特別養護老人ホームの加賀屋の森というのがあるんだけど、そこの敷地内にビニールプールをつくって夏場は子どもたちが自由に参加してもらってプール開きみたいなことをやっています。そういうのがいろんなところであったらなと思いますけれども。

○藤原子育て支援・教育担当課長

すみません。一点、ちょっと紹介なんですけれども、こちらの子育て支援室のチラシです。どこに相談したらいいかわからないというところもさっき委員からおっしゃっていただいたところもあるんですけれども、こういった子育て支援室のチラシを健診時であったり、いろんな広場、子育てサロン広場で配らせていただいたりということで、こういった子育て支援室で相談できるよという部分をぜひぜひ増やしていけたらなと、周知できていったらなというところでちょっと頑張っているところです。ホ

ームページにも載せさせていただいているのですが、なかなか本当にしんどい方には届いていない場合もありますので、できたら皆さんにも民生委員さんとかにもお伝えしているんですけども、困ったことがあれば子育て支援室にまず一報いただけるようにお伝えいただくような形で、皆様もぜひ御協力いただけたらと思います。南港病院の三木先生も日頃から連携は病院受診の同行もさせていただいたりいろいろさせていただいていますので、連携させていただいて本当に助かっております。ありがとうございます。ちょっとお知らせです、すみません。

○杉村委員

すみません、前の全体会でもちょっと話させてもらってなかなかしつこく言って申し訳ないので、我々サライブというボランティア団体をやっています、その中で今進めているところなんですけれども、尼崎市でやっているサマーセミナーというサマセミという、以前区役所でも取り組まれたということはお聞きしていたんですけれども、を実現というかやりたいなと思っているんです。それは何かというと、情報発信、尼崎市でやっているのは学校を使って不特定な情報発信をする会なんですけれども、そこで市民であったり、各団体とか、いろんな人が集まって自分の好きなことを情報発信するという会なんです。区役所のいろんなイベントとかもそうですし、先ほどの子育てのこともそうなんですけれども、インターネットを通して情報発信するというのは不特定多数の人から見てもらえる半面、自分が探したいと思わないとその情報に行き着かないんですよ。探したいと思ったら深く掘れるという意味では、広く深く取れるという意味ではインターネットはすごくいいと思うんですけれども、全く知らないとか、全く興味ないという人が情報を取ろうと思ったらなかなかスマホは使えないんですよ。そういう意味では初めて知るとか、初めてそれをやってみたいと思うというのは、結局アナログな情報発信しか取れないことが多いかなと思うんです。そういう意味では尼崎でやっているサマーセミナーというのは、いろんな多様な人が来て、いろんな情報発信をして、興味を持ったところに対して自分が見に行くというや

っなんですけれども、そのやり方がいいかどうかは別として、イベント的な形でたくさんの方が集まるような機会をつくれば、いろんな情報発信を自分で取りに行けるチャンスが増えるのかなと思って、そのアナログ的な情報発信はこの時代だからこそ必要かなと思って今さらだけどちょっと取り組んでいるところなんです。

ただ、なかなかハードルも高くて、いろんなところに協力してもらわないと我々のボランティア団体だけではちょっと規模も小さいですし、発信したところでたくさんの方が集まるような機会にはならないかなと思っているので、イメージとしては北加賀屋でやっている千島でやっているアート・ビートみたいにたくさんの方が集まって見たり聞いたりで行為を受け入れてもらえるというようなイベントにしていきたいなと思っているんですけれども、なかなかちょっとそれが難しいので、この会がいいのかどうか分からないですけれども、そういう情報発信の仕方もあるということを記してもらって、何かの機会ですれいいよねとなっていけばいいかなと思って記録に残してもらえたらと思います。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○杉村委員

すみません、長くなって。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○勝原委員

僕、ちょっと答えだけ知りたいのですが、今この資料5ページからずっと読んでいたんですけれども、各項目で達成状況とありますでしょう。96.5達成、これは何を根拠にどこが出した達成率なのか教えてください。簡単でいいですよ。区役所が何々の資料を基にこのパーセンテージを出しましたと、そなんので。パーセンテージがちょっと高過ぎるんじゃないかなと、僕個人の意見は思っただけで。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。いい意見。

○勝原委員

だからそれをこのパーセンテージはどこでどういうあれで出したのかなと思って。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一概には全部言えないんですけども、ある一定目標として大体80%とかあるんですけども、年々達成していけばちょっと上になっていく部分もありますし、集計の仕方。区民アンケートの分については、子育ての分については、例えば1-1-3の9ページのところで言えば、①は子育て世帯の保護者アンケートで区が発信するアンケートでとっています。②で言えば、区民アンケートで「子育てについて区役所で相談できることを知っている」と回答する割合、こういった分類で分けてそれぞれ区役所認知度とか、その辺を確認して。

○勝原委員

アンケートの答えの数に対してのパーセント。

○藤原子育て支援・教育担当課長

はい、そうです。また、パーセントが高過ぎるとかいろいろあると思うんですけども、ある一定達成してきたらもう達成したら次やっぱり上を目指すところも出てきますので、90%とかいろいろあると思うんですけども、そういった設定の仕方にしています。

○勝原委員

だから、さっき話にあった1-1-1、96.5と。

○藤原子育て支援・教育担当課長

誰かにはつながっているというところですね。

○吉田副区長

区民アンケート自体が無作為抽出でやっていますので。

○勝原委員

これが全部区民アンケートということですか。

○吉田副区長

基本的に区民アンケートが一番多いです。個別でアンケートを取っているやつもありますけれども、2歳児とか送ったやつとかありますけど、区民アンケートの中で項目によっては子育て層とか、そういうのもアンケートで抽出できますので、そこで引っかけたりしながら。

○勝原委員

分かりました。ありがとうございます。

○村藤部会長

コロナ明けて活動が始まって、地域のつながりとか感じながら日々活動させてもらっているんですけども、このプログラミングとかすごくいいんですけども、私は住之江出身ではないのですが、すごいところは住之江生まれ住之江育ちの方が結構多くて地域が好きな方がたくさんいて、この地域が好きでこの地域だからこそ楽しめるイベントを子どもたちがやってみるというのも少し身近だし経験値として、ここでこんなイベントをやってみたというので子どもの記憶とか、そのとき一緒にした仲間のこと大事にするかなとは思っているので、企業向けとかそういうのも少しあるかもしれないけれども。

例えば区民まつりが今度あるんですけども、あれでも自分たちのブースを持って、ただ毎年同じことじゃなくて自分たちの考えたことを区民の人とかに披露できたりとかすれば達成感があるし、そうしたら先輩たちがやっていた、次は俺らがやってみようかというふうになるかなと思うんです。こども食堂にしる何にしる対相手があればちょっとやる気があったりとか、支える大人たちも、こういうのは区民まつりにしる何にしるこんなたくさんの人がいろんなところで活躍してこの事業があるのは、私も大人になって知ったこともたくさんありますし、自分の子どももこれちょっと教えた

いなというのがあるんです。私も一回子どもをたこ揚げ大会に連れて行ったときに子どもがびっくりしていて、こんなにたくさんの人が朝から豚汁をつくって、みんな寒い中していて、いろんな団体の方が打合せをしているのを見て、やっぱりそれは教えていけないといけない人のつながりだったり、となると、プログラミングもすごく魅力的なんですけれども、やっぱりそこにいろんな地域の人に関わると人の顔が見えるというのは大きいかなと思うので、今年はちょっと難しいのかもしれないですけれども、現実的なほうが子どもにとって取り組みやすかったりとか、私らも知らせやすかったりするのかなと思うんですけれども、私の意見ですけれども。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○吉田副区長

ちょっとずれるかもしれないですけれども、昨年住吉祭でみこしを担ぐのに、ちょうど住之江中学校のラグビー部とかサッカー部のお子さんに学校経由で来ていただいて担いでいただきました。そうしたらその後、生徒らがみんなよかった、また来年も来たいとかいうような意見をその後のときにおっしゃっていたので、やっぱりそういう地域の活動でも入ってみると感じてもらえる部分はあるのかなと改めて思ったんです。だから、それが先ほどおっしゃったそういうのだけじゃなくて、地域の方々が活動している中に入ることで。

○勝原委員

区民まつりとこどもまつりと内容がよく似てるもんな。

○村藤部会長

そうなんですよ。

やっている私もあれですけれども。

○勝原委員

出し物も各団体、体協でも青指でも福祉でもPTAでも、ほとんど一緒ですよん。

中の綱引きがないだけちゃうんか。

○風口委員

そうそう。

○勝原委員

がらっと変えて、それは区役所から発信してもらって、こんなふうにしょうやと言って、その中でみんなできたら。

○杉村委員

最初の発信は言っていたいたほうが、多分みんな動くと思う。確かに最初の発信は何か一声かけてもらったほうがいいかもしれないですね。

○村藤部会長

ほかに御意見はありませんか。

それでは予定しておりました時間となりましたので、終了したいと思います。

本日の会議内容につきましては、区政会議の全体会において情報共有を図ることとしていますが、今回の区政会議全体会は、6月19日水曜日に開催予定としています。決定次第、事務局からお知らせいたします。

また、事務局におかれては、本日の議論内容を整理いただき、全体会で報告できるよう資料の取りまとめをお願いいたします。

本日、予定していました議題は以上でございますので部会を終了いたします。

議事進行に御協力をいただきありがとうございました。

最後に、事務局から何かありましたらお願いいたします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

村藤部会長、どうもありがとうございました。

皆様につきましても、本日は長時間にわたりまして御議論いただきありがとうございました。

いただいた御意見をしっかりと受け止めまして、今後の区政に反映していけるよう

取り組んでまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日の議論を踏まえまして、部会長より指示がございました全体会で報告する資料につきましては、事務局と部会長に一任いただけるとありがたいです。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは以上をもちまして、育む部会を閉会させていただきたいと思います。

6月19日は、全体会の予定ですので御予定をよろしくお願いいたします。

それでは、本日はどうもありがとうございました。

以下余白